

CONTENTS COMBAT

2014.Dec.
No.465

12

Cover Design
favorite graphics (tamao ito),
Cover Photo
©Norman Licensing, LLC 2014
©WORLD PHOTO PRESS 2014

※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【第1特集／ミリタリー】

008 月刊・自衛隊
につぽんのちからこぶ

●取材:菊池雅之

012 【特集】装備好きの、装備好きによる、装備好きのためのイベント

「GEARLOG」

034 2014年 War &
Peace Revival 見聞録

●Report Sam Motojima ●Photo Sam Motojima /J.Ko

040 新作戦争映画大作『FURY』公開同時徹底レポート
1945年世界は傷ついていた……2014年『FURY』のすべてを知った

フューリー

●Report& Photo:Sam Motojima /K.Numata/ ●Illustration:Shin Ueda

050 The Equipments of the U.S. Force
[現用米軍装備カタログ] 第123回
映画『ゼロ・ダーク・サーティ』に登場する
LBT-6094防弾プレートキャリアの現状

●解説:松原隆 ●撮影:山崎 学

064 アフリカで最大級の軍事見本市
African Aerospace & Defence 2014

●レポート:清谷信一 (Shinichi Kiyotani)

074 NEW GENERATION STYLER
HEART ROCK 2014

●fujiwara

085 Militaria Roundup!
マシンガン(機関銃)・アクセサリPart.1

●解説:菊月俊之

020 【第2特集／トイガン】
WESTERN ARMS
M1911A1 MUSTANG &
SALLY Ver.CoD

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

023 WESTERN ARMS
M4A1 FULL METAL
CUSTOM SERIES

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

004 COMBAT FRONT LINE

046 Goods & Accessory

060 “着る”マグフォース!!

●Photos & Text by Tomo Hasegawa

063 映画『エクスペンダブルズ3』

●狩野健一郎

068 トイガンニュース

068 東京マルイ HK417アーリーバリエーション

070 東京マルイ Hi-CAPA E

071 東京マルイ LIGHT PRO M4 CQBタンカラー & 次期ラインナップ

072 WA NEW MODEL

073 タナカ M700 A.I.C.S. AIR (Green)

073 タナカ S&W M40 センチニアル(スチール・ジュビター・フィニッシュ)

084 サープラスいじり技術研究所

●写真・文:織本知之

096 PRESENT

130 FEAR NOT THE DARK……
Power of Light

SURE FIRE

act01 そして、またシュアファイヤ

●Photo & Text Tomo Hasegawa

134 THE CLONE

138 monoショップ新聞

140 兵装嗜癖

●by Fujiwara

184 中田商店グッズ

186 S&Grafグッズ

188 走って撃って楽しんで
サバゲ放浪記 ゆい散歩 其の1 仙台編

●取材:上矢ゆい

097 GAME OVER THE TOP

100 ふれんどりっファイヤー!

108 ミリタリー雑学講座

112 蛙のゆびさき(中山 蛙)

116 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

120 物欲ワンホール

ROUND 38:鶏小屋製作記

124 トイガンズジャンクション

161 バックナンバーリスト

162 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!?]

164 レア・ミリタリー・テクノロジー

166 狩野健一郎のシネマ放浪記

167 狩野健一郎の新作DVD紹介

168 APS大阪公式記録会

169 A STITCH IN TIME

170 APS練習会in東京

171 ザ・ビクトリーショー報告

172 ミリタリー・コレクション

174 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



装備好きの、装備好きによる、装備好きのためのイベント



GEARLOG

ドイツ、イギリス、米軍レンジャー。
あちらに見えるはロシアか東欧に英、伊、独まで。
いったいここはどここの国？
「ギアログ」^(注)だけの濃ゆいやつらが軍靴を鳴らしてやってきた！
腰に弾倉巻きつけて！
戦闘服にしみこんだ男の匂いがやってくる！
装備の夢よ、良き友よ！

(注) 解説しよう「ギアログ」とは…
受付で「あ、今日はロシア軍です」って大手を振って自己紹介しようとも
受付のヒトは眉毛一本動かさない狂気と俠気の狭間で生きる装備好きの男たちの世界ですよ。

Photo／Text = 織本知之

M4A1 FULL METAL CUSTOM SERIES



war and peace

2014年 War & Peace Revival 見聞録

revival 2014

Report Sam Motojima
Photo Sam Motojima / J.Ko
協力 W & P

REPORT SAM MOTOJIMA
PHOTO: SAM & J.KO

2014は全世界悪天候だったのだ

初めに

今年も5月頃になると、7月中旬に開催される英国恒例の「War & Peace Show」に行くべきか行かざるべきか……とハムレット並みに悩み始める。

日本の恒例の夏祭り同様に毎年繰り返される内容のイベントに少々飽きが来ていることもあるが、いちばんの問題は英国までの12時間前後の飛行時間、そしてロンドン空港からドーバー海峡沿いにある会場までキャンプ用具や食料品、商品等の大荷物を持つての移動、そして最後の問題はここところ続いている1ポンド=160~180円という高額な為替レートが参加経費を圧迫していることも大きい。

そんなこんなで、毎年直前まで参加・不参加で悩むのだが、結局はイベントの楽しさが中毒症状のように嫌気分を押し倒して、結局はイヤイヤ気分からウキウキ気分となって毎回機上の人と化しているのだ。

これが10年以上続いている私の初夏における恒例事業なのである。



毎年色々なコスプレをすることで会場で人気のフランス人のフランス人ディート氏。今年は第1次世界大戦のフランス軍将校。



今年は第1次世界大戦開戦100周年記念がタイトルで数カ所にディスプレイがあった。Mk. I 戦車も2輛あったが、いずれもレプリカ。写真の物は外装がベニア製だが実走する。

毎回の取材内容

さてさて、さらに遠路遙々参加している以上は毎回イベントの様子をレポートするのも常なのだが、参加している戦車やリエnakターの姿を「どうだ、すげーだろう!!」的感覚内容で写真組みするのは今ひとつ面白くなく、筆者として毎回何かしらの撮影主題を決めて臨まなければ、つまらない内容になってしまいかねないと苦慮している。

今年も現地入り直前まで過去10年以上取材してきたリポート内容を思い出してマンネリをさける撮影対象を考えあぐねた結果、今年11月に公開される久々の大型戦争映画「FURY: 怒りの神」の内容に迎合して戦車戦とリエnakター達のいちばん重要な演出であり癒しタイムともなっている「野戦糧食」にスポットを当ててのレポートにすることとした。

本来、今年は第1次世界大戦100周年記念開催なのだが、主戦場だったヨーロッパと異なり、それほど人気のない日本ではそこいらあたりは端折って説明していこう。



ヘリコプター乗り場の看板

日本たぬき空を飛び……てか!



FOR TEN YEARS ONE WOMAN
NEVER STOPPED SEARCHING FOR THE
MOST WANTED MAN IN HISTORY

**ZERO
DARK
THIRTY**

FROM THE ACADEMY AWARDS-WINNING WRITER AND DIRECTOR OF
THE HURT LOCKER

**ZERO
DARK
THIRTY**

——ゼロ・ダーク・サーティ——

●公式サイト: <http://zdt.gaga.ne.jp/>
<http://zdt.gaga.ne.jp/>

●発売元: ギャガ ●販売元: ハビネット

●価格: DVDコレクターズ・エディション
<2枚組> 3990円 /
Blu-rayコレクターズ・エディション 4935円
Jonathan Olley

©2012 CTMG. All rights reserved



『ゼロ・ダーク・サーティ』(Zero Dark Thirty)は、ウサーマ・ビン・ラーディンの捕獲・殺害ミッションに挑む特殊部隊を描いた2012年のアメリカが制作したアクション・サスペンス映画だ。この中で登場するSEAL TEAM6、通称DEVGRUが装備する防弾プレート・ベストがロンドンブリッジ製LBT-6094。LBT-6094が登場して9年近くなり、デザインや迷彩柄が何度となく改良され、2014年モデルの登場で現在まで至って

いる。映画ではロンドンブリッジ社が装備協力していると思われ、劇中モデルは2011年までのMOLLEループがAOR1迷彩柄になった6094と思われる。AOR1迷彩の6094は現状でも非常に価格が高く、特にESAPIプレートモデルよりもスイマーカットプレートモデルが高く、さらにはMOLLEループがTANテープのAOR1初期6094が高額となっている。さすがに安月給の筆者には比較的に安い中古SEAL放出品モデル

が狙い目で、今回も6094放出品を集めてみた。しかし2008年あたりになるとAOR1の色褪せが酷く、タグの印刷も読めないのがコレクターにとって辛いところ。

SEAL納品6094を大まかに分けるとTANカラー、AOR迷彩+MOLLEループ単色、オールAOR迷彩D-PC (DEVGRU-PLATE-CARRIER)、オールAOR迷彩MMACとなる(試作品や限定品は含まない)。



【裏側】

隊員が遊びで銃鉄を投げている映画中盤のシーンでLBT製ホルスターやリガーベルトが登場する。

The Equipments of the U.S. Force



リガーベルト裏側。今は新しい「逆向き・赤いライオン」ロゴになってる。

[現用米軍装備カタログ] 第123回

映画『ゼロ・ダーク・サーティ』に登場する
LBT-6094防弾プレ

ートキャリアの現状

●解説: 松原隆 ●撮影: 山崎 学 ●協力ショップ: LAZY CAT (<http://lazycat.jp/>) / Gamis (<http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/>) / Tri.S (旧・特小工房 <http://tri-ss.com/>) / トインソルジャー&FMA / 沖縄オーダナンス (<http://ordnance.jp/>)

●参考資料: US NAVY (<http://www.navy.mil/>) / <http://www.navy.mil/> / SEALミュージアム (<https://navysealmuseum.com/>)